

# 序章 都市計画マスタープランの策定にあたって

01 市民意向調査

# 02 都市づくりの課題

03 全体構想

04 ゾーン・拠点別方針

05 分野別方針

06 実現に向けて

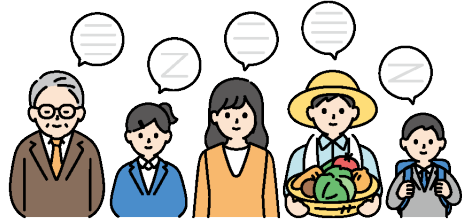
参考 佐賀市の現況



## 第2章 都市づくりの課題

市民意向や本市の現況を踏まえ、今後の都市づくりを進める上での課題を以下に示します。

### 市民のみなさまの声



**Q** 佐賀市に住み続けたいと思いますか？

**A** 約7割の方が本市に住み続けたいと回答しており、定住意向が高くなっています。

**Q** 生活環境や施設整備について特に必要だと考えることはありますか？

**A** 「火災・地震・水害などの防災対策」や「歩行者・自転車の安全確保（歩道整備など）」が特に必要とされています。

**Q** まちの魅力を高めるまちづくりの取組について期待することはありますか？

**A** 「佐賀市北部の温泉や南部の干潟など、各地域の観光資源のさらなる磨き上げ・PR」、「鉄道駅と主要な観光地を結ぶバスなどの公共交通ネットワークの形成」が多くの市民から期待されています。

**Q** 自然環境の保全・活用や地球温暖化の防止に向けた取組について重要だと考えることはありますか？

**A** 「過度に自家用車に依存しない公共交通への利用転換を促進する」、「山間や丘陵地の森林、動植物などを保全する」が特に重要視されています。

**Q** 生活環境や施設整備にあたって満足していることはありますか？

**A** 「緑・水辺など自然の豊かさ」の満足度が高い一方で、「鉄道やバスなどの利便性」の満足度が低い状況です。

**Q** 高規格道路の整備により期待することはありますか？

**A** 「利便性の向上による定住人口の増加」、「交通ネットワークを活かした広域観光の促進」が期待されています。

**Q** 安全・安心なまちづくりに向けた整備や取組について期待することはありますか？

**A** 「洪水などの被害を減らすよう河川などを整備する」が特に多く、「公共施設などの防災機能の強化（避難や災害時の一時的な滞在機能など）」や「建物の耐震化（地震時に倒れにくい建物にする）をすすめる」も多くの市民から期待されています。

## 今の佐賀市はどんなまち？

### 佐賀市の特性

本市は、九州の北西部・佐賀県の中東部に位置し、北東部は九州最大都市の福岡市と隣接しています。また、市の北部は緑豊かな山なみ、南部は広大な干潟を有する有明海など山から海まで豊かな資源に恵まれています。

さらに、市内の各地に歴史を物語る資源が分布しており、歴史的風致の維持及び向上を図っています。

### 産業構造

佐賀県の年間商品販売額のうち、約3割以上が本市に集中しており、広域的な経済活動の中心地としての役割を担っています。

### 都市基盤

福岡都市圏や九州の主要な都市などにつながる鉄道及び高速道路を有しているほか、有明海沿岸道路や佐賀唐津道路の新たな道路整備が進む等、広域的な交通ネットワークの形成が図られています。

### 災害

長崎自動車道北側の斜面地で土砂災害警戒区域等が指定されているほか、都市計画区域の大部分が浸水想定区域に指定されている状況です。

### 人口動向

総人口は平成7年(1995年)をピークに減少に転じ、老年人口は大幅に増加する見通しとなっています。

人口動態の推移を見ると、社会増減は近年増加傾向にあり、特に子育て世代が本市へ転入している状況です。

### 土地利用

複数の市街地開発事業により健全な市街地を形成しているほか、佐賀大和IC周辺や山間部などには工業団地が整備されています。

### 交通

鉄道が2路線、バスが5事業者、コミュニティバス、デマンドタクシーがあり、一定の利便性が確保されている状況です。

また、交通手段は自家用車の割合が増加傾向にある一方、自転車の割合は減少傾向にあります。

## 佐賀市の課題

### 課題

①

### 本格化する人口減少・少子高齢化への対応

平成7年(1995年)をピークに人口減少が進む一方、高齢者の数は一貫して増加しており、令和12年(2030年)には3人のうち1人が65歳以上になると予測されています。

このような状況の中で、持続可能な都市を形成していくため、将来にわたり市民の生活利便性を確保するとともに、地域コミュニティを維持していくなど、本格化する人口減少・少子高齢化に対応していくことが求められます。



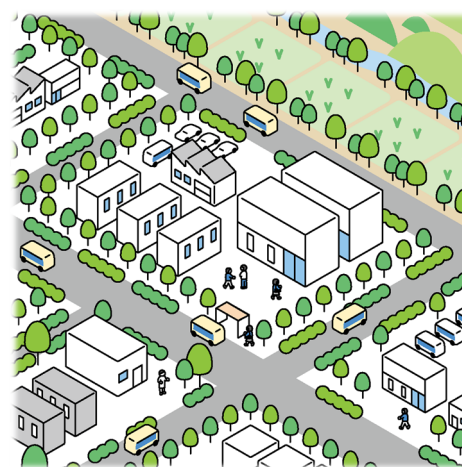
### 課題

②

### 新たな広域都市基盤と連動した経済活力の向上

本市は福岡都市圏や九州の主要な都市などにつながる鉄道及び高速道路を有しており、活発な経済的・人的交流により発展を続けてきました。また、現在、有明海沿岸地域の各都市の交流促進・連携強化に向け、「有明海沿岸道路」の整備をはじめ、南北の広域交通を結ぶ大動脈として期待される「佐賀唐津道路」の整備が進められています。

これら広域都市基盤を生かしたヒト・モノの流れをより一層促し、本市の活性化を図ることが求められます。



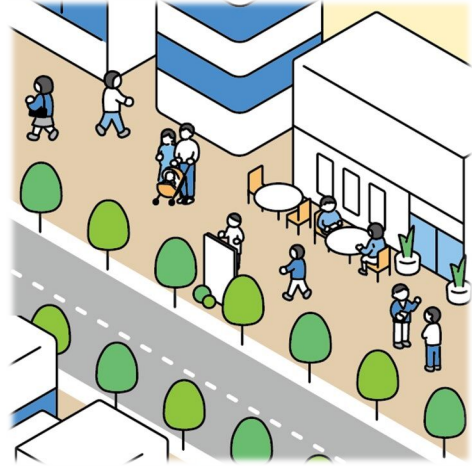
## 課題

## ③

## 都市の質を高め、県都としてさらなる魅力の向上

本市は県庁所在地として、社会経済活動の中枢を担い、県勢の発展に寄与してきました。また、佐賀駅周辺を中心に商業・業務機能が集積するにぎわいのある都市空間とともに、良好な住環境が形成されています。

今後は、佐賀駅を中心に北は「サンライズストリート（SAGAサンライズパークから佐賀駅まで）」沿線、南は「中央大通り」を含めた佐賀城公園へ至る通りの沿線の南北軸を強化し、市街地全体の魅力を高め、さらなるにぎわいや交流を生み出すとともに、多様な住まい方に応じた豊かな住環境を創出するなど、都市としての質の向上が求められます。



## 課題

## ④

## 地域資源を生かした「佐賀らしさ」の継承

本市は、みどり豊かな山なみや広大な干潟を有する有明海など、「山から海まで」を包括した豊穡な自然に恵まれています。また、江戸時代に整備された長崎から小倉を結ぶ長崎街道の宿場風景など歴史文化資源が今もなお多く残されています。

市民のまちに対する愛着や誇りを醸成するため、自然・歴史文化資源を生かして、これらの貴重な資源を次世代に繋いでいくことが求められます。



## 課題

## ⑤

## 激甚化・頻発化する自然災害への対応

近年、気候変動等に伴う豪雨災害や地震による災害など自然災害が激甚化・頻発化しています。

そのため、誰もが安全・安心に住み続けられるよう、災害に強いまちづくりを推進し、自然災害に対応していくことが求められます。

